

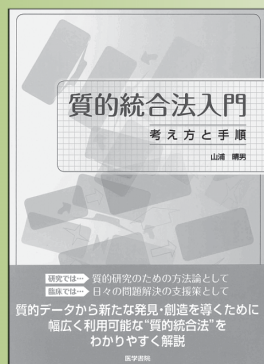
混沌から本質を探り、高い専門性を養うために

【評者】三輪真知子 梅花女子大学看護学部

質的統合法入門

考え方と手順

山浦晴男(著)



定価 2940 円
(本体 2800 円 + 税 5%)
医学書院
(Tel : 03-3817-5657)

保健師の役割は、公衆衛生行政の最先端で地域住民と関わり、住民の生活や生き方に何が起きているのかを見極めながら、疾病予防や健康づくりを支援することにある。そのためには、地域の的確なアセスメントを行い、健康課題の把握・介入計画の立案・評価までを自律的に推進しなければならない。つまり、保健師の専門性は、混沌としてとらえどころのない住民の日常生活からその本質を見抜き、健康課題の解決を導くことにあるといっても過言ではないだろう。

本書で紹介されている質的統合法は、そうした保健師の専門性を高めるために大いに活用することができる。質的統合法はその名のとおり、さまざまな「質的データ」を「統合」して理解するための方法である。第1章でも書かれているように、この方法は川喜田二郎氏が創案した「KJ法」や「創造的問題解決」といった考え方をベースにしていることもあって、保健師の日々の実践的な実態把握や問題解決によくフィットする。

データ集めから統合までの具体的な手順は第2章で説明されている。無数のデータ群を整然とした構造図へとまとめるこの方法は、住民の日常生活という混沌から、本質をとらえるというプロセスに重なる。実際、地域住民の生活意識・感情・行動といった実態の把握にはそのまま利用することができ、手順どおりに進めていくことで、出来事の意味が自ずと整理され、住民の生活をより掘り下げて理解することができる。

一方で保健師は、住民の健康状態だけでなく、労働問題や経済状況の悪化、自然環境の破壊、高齢者世帯や生活保護世帯の増加といった社会的・経済的・環境的要因と関連させて健康課題を捉え、施策を計画しなければならない。こうした複合的な要因を考えなければならない地域診断においても、質的統合法が威力を発揮する。質的統合法は個別事例の把握だけでなく、それらをボトムアップ的に積み上げるため用いることもでき(総合分析)、それによって地域の事情に即した総合的な実態把握が可能となる。

筆者はこれまで、地域診断ツールとしてさまざまなモデルを活用してきたが、「地域づくり」にまで発展させるには限界があるというのが実感である。なぜなら、平均化されたモデルに依存するだけでは、さまざまな背景をもつ住民の実態を反映した施策を実行することは難しいからである。地域をつくり、健康をつくるのは、住民と協働した試行錯誤の取り組みである。地域性を把握し、住民の実態を反映した施策化へとつなげるためには、地域住民に潜在している実態を掘り起こし、それらをさらに統合していくアプローチが不可欠なのではないだろうか。

本書を片手に、住民の声を整理し、混沌から本質を探り、健康課題を明確にしていくことで、個々の実態把握から、広く地域全体の把握までが可能となる。保健師として力量形成していくうえで、お薦めの一冊である。